

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校

新座市立第四中学校学校だより 令和7年11月1日 第8号

TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



「人生の基礎を築く」ことの意義

校長 大井 敏彰

【四中生の確かな成長】

11月に入り、2学期当初の暑さが嘘のように肌寒くなってきました。2学期の前半は様々な生徒の活躍が見られました。英語暗唱弁論大会、合唱祭、新人体育大会、生徒会役員選挙、地区駅伝大会等、様々な場面で四中生が「堂々と自己表現する姿」が見られ、四中生の確かな成長を実感することができました。



【10.28 体育祭予行～準備体操～】

体育祭当日も四中生一人一人が躍動する姿を楽しみにしています。

【「人生の基礎を築く」とは何か】

本校の学校教育目標に「人生の基礎を築き」という文言があります。この意味を考えるにあたって、自分が中学生だった頃はどうかだったのか振り返ってみました。

私は小学生の頃、勉強はそれなりにできましたが運動が不得意な子供でした。また、人づきあいが下手で、よく友達にからかわれ、毎月のように誰かと喧嘩をしていました。

中学生になってバレーボール部に入りました。1年生の頃は、練習についていくのがやっとでした。冬場の朝練では毎日「追い抜き走」がありました。部員が2列になってトラックをジョグしながら、一番後ろになったらダッシュで先頭まで走り、またジョグに戻る。この苦しい練習がほぼ毎日続きました。

2年生になり、嬉しいことがありました。春の体力テストで1500m走の記録がクラスで5位に入り、教室に掲示されました。「たか

がクラス5位」でも、私にとっては生まれて初めて運動で結果が評価された「輝かしい出来事」でした。その後、2年生の秋には地区駅伝大会の練習に参加しました。約1か月、苦しい練習を重ね、2つの駅伝大会に「Cチームの選手」として出場させてもらいました。記録は平凡なものでしたが、初めて「選手」に選んでもらった経験は大きな自信になりました。

たまたま入ったバレーボール部で、朝練習を頑張った結果「成長した自分」「変化した自分」に気づき、「何事もやってみて自分の成長につなげよう」という考え方が身に付いたことが私の中に築かれた「人生の基礎」であり、今の自分につながっていると考えます。

開成中・高等学校長の柳沢幸雄さんは、著書の中で「思春期に受けた影響で人生は動く」と述べています。とても共感できる言葉です。

そう考えると、「人生の基礎を築き」という本校の学校教育目標はとても意義深いものと考えます。日々の授業を基本としながらも、多様な教育活動や他者との関わりをとおして、四中生一人一人が自分自身のよさや変化、成長に気づき、人生の基礎となる考え方が築かれるよう働きかけていきたいと思います。

【「体育着・ジャージ」を変更します】

学校指定品である「体育着・ジャージ」を来年度から変更することになりました。現行のものは昭和63年に導入されてから35年以上も経過しているため、1学期の保護者アンケートの結果を踏まえながら、業者選定委員会をとおして新モデルを選定し、今回の変更に至りました。新モデルの詳細と今後の対応につきましては、後日書面にてお知らせしますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。